

第4章 県民理解の促進と研究開発の推進

1 県民理解の促進

- 「付加価値の高い持続可能な農林水産業」の実現のためには、農林漁業者、関係機関・団体、消費者など県民各層の理解と協力が不可欠です。
このため、県は農林漁業者や関係機関・団体と連携を図りながら、施策を推進します。
- 消費者、農林漁業者、製造・流通業者など、広く県民に向け、情報の受け手の多様化にも対応し、県ホームページを始め、様々な媒体、機会を通じて、県産農林水産物や農山漁村に関する情報提供を積極的に行います。
- グリーン・ツーリズム等を通じて、交流・対話の機会を設けるなど、県民の皆さんが、農林水産業・農山漁村に直接触れ、体験できる環境づくりを進め、自然環境の保全や食生活の重要性、農林水産業・農山漁村に対する理解が促進されるよう努めます。

県広報を通じた
情報提供

農林水産業・農山漁村
体験



<農業・農村体験>

<農業水利施設の見学会>



<HP等SNSを利用した情報発信>

<林業現場メディアツアー>

<水産物の食育活動>



県民理解の促進

- 本県には、お米や日本酒だけでなく、おいしい農林水産物がたくさんあること。
- 農林水産業や農山漁村が有する多面的機能とはどのようなものか。
(田んぼダム、水源かん養、温暖化効果ガスの吸収 など)
- 減農薬・減農薬肥料栽培や有機農業などの環境と調和した持続可能な農業とは。
- 今後ますます注目される「SDGs」や「GAP」、「食品ロス」とは。
- 「食の安全・安心」とはどのようなものか。

などの情報を、あらゆる機会を通じて積極的に発信していきます。

2 研究開発の推進

(1) 県産農産物の競争力強化を実現する戦略的な研究開発

- 水田所得の最大化、園芸振興の実践、畜産経営の収益向上に貢献するため、遺伝子情報^(※)を活用した品種育成及び生産技術、水田農業の生産性向上技術や水田への園芸導入技術など、将来の県農業・食品産業を見据えた戦略的な研究開発を進めます。

(※) 高温耐性の有無などが評価可能な遺伝子レベルの目印である遺伝子マーカーなど



<遺伝子情報を活用した品種育成>

(2) 生産現場が抱える課題を解決する研究開発

- 県産農畜産物・加工食品の品質・食味向上技術、低コスト・省力化生産技術、地域の特徴を活かした高付加価値化技術の開発など、生産現場における課題解決や行政施策を推進する上で必要な研究開発を進めます。

(3) 持続可能な農業・食品産業の構築に向けた産学官連携による革新的な研究開発

- 農業分野におけるカーボンニュートラルの実現に貢献できる生産技術、DXを活用したスマート農業技術など、持続可能な農業・食品産業の構築に向けた革新的な研究開発を進めます。また、新しい市場創出に向け、産学官連携による共同研究を一層強化します。

(4) 森林資源の利用促進と森林の有する多面的機能の発揮に向けた研究開発

- 木材の利用用途を拡大し炭素貯蔵にも寄与する、スギ大径木の加工技術の開発や、高付加価値なきのこ栽培技術の研究、特定母樹由来の苗木を用いた低コストな再生林・保育施業方法の確立、抵抗性クロマツなどの研究開発を進めます。



<大径丸太の強度調査>

(5) 水産業の振興と限りある水産資源の適切・有効活用のための研究開発

- デジタル技術を活用した操業支援技術のほか、精度の高い資源評価・管理技術、水産物の高付加価値化に関する技術、炭素貯留に寄与する藻場の効果的な回復技術等の開発を進めます。

また、河川における生態系保全技術や県産錦鯉の優位性を高めるため、魚病の早期発見技術開発を進めます。



<調査船による資源調査>